

令和5年度の共同プロジェクトにおける研究活動 実績報告書  
「少子化時代の「希望の妊娠」実現プロジェクト  
—スリランカー日本の プレコン（妊娠前の健康促進）実態の比較研究から」

大学生でも知らないことが多い「結婚」「妊娠」「子育て」。その始まりは男女で異なる身体機能を有することにあり、それらがうまく発揮されて奇跡的に妊娠が成立します。実際には、統計が示すように、就職後間もない20歳代女子に人工妊娠中絶率が最も高く（厚生労働省）、計画外の妊娠が多いことが分かります。計画外の妊娠では、出産した場合には産後うつや虐待リスクが、もし人工妊娠中絶を選択した場合には身体的にも心理面にも負担を負い健康を損なうリスクが生じます。また「性」を介して生じる感染症には、男女ともがんのリスクになるものがあり（HPV感染症）、生涯にわたる健康促進としても、適切に予防することが必要です。実は、若年世代の健康は、病気ではなく、妊娠出産に直結する「性／ジェンダー」の関わりが大きいのです。

そこで、本研究では、これからの社会を作り上げる若年世代が、自分自身が「妊娠前」の時期にあることを認識したセルフケア（プレコンセプションケア）を実現させ、「妊娠する／しないを考えて「希望の妊娠」ができる」こと、このことを通して健康が促進され貴重なライフイベントを享受できること目指します。これらは、SDGs、#3健康と福祉、#5ジェンダー平等の実現へのアプローチです。また、WHOが主導する「主体的なプレコン（プレコンセプションケア Preconception care、妊娠を希望する前の避妊を含む健康促進ケア）」の日本型システムとして、深刻で長期化する少子化社会の現状をすり合わせて提案していきます。

研究の対象者は、学生から社会人への移行期にある20歳代男女を対象者とししました。同質の集団内の検討では判別しにくい潜在的なジェンダーバイアスを浮かび上げるために、よりジェンダー平等に適ったシステムを有するスリランカでの実態調査を行います。日本の20歳代女性の実態調査は実施済み（2022年）ですので、その結果との比較から検討します。

令和5（2023）年度は、前年度受審したスリランカの倫理審査委員会から承認を得て、調査（ウェブ調査）を開始しました。年度末現在、調査を継続中です。一部は、性感染症であるHPV感染の知識と予防行動の実際を中心に、成果発表をしました。（the 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS、香港)、2024年3月）。

